

破天荒

教宣部

5079号

2020年
3月 2日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



2020年 春闘 要求提出



先週の金曜日、春闘要求書を会社に提出し本年度の春闘が始まりました。十一日の回答指定日には回答を行うとの約束もしました。

要求

本人給表の各年齢本人給(ベース)に補正加算(アップ)するよう要求しています。補正原資以上の部分では一律加算するよう求めています。

月々の賃金は一時金や残業代・退職金の基礎(ベース)になるものであり、生活そのものです。

会社はベアゼロ、定昇のみ(書いたことは守る)、利益が出たら一時金に反映さ

せるといふ主張を繰り返していることだと発言しました。

私たちが各年齢になったらそれに相応しい生活が必要だと考えています。二七で結婚・二〇で第一子・三五で第二子・四九になつたら第一子が卒業して働き始める...そういうライフサイクル

なんでも、国税局の調査によると会社の生存率は十年で六・三%、三〇年で〇・〇二%だとか。六〇年だとさらに微々たる数値になる。つまり六〇年続いている会社は一万社に二社も残らない、ということ。そんな六〇周年を超えた

ルの中で、例えば二〇〇二年の四五歳と現在の四五歳では賃金(収入)は同じで支出は一割程度増えていると思います。その分を生活するための費用として会社に出してほしいと要求しているわけです。

年齢構成が年齢ごとに入らず存在したら、六〇歳で定年退職・十八歳の新入社員を採用するので、会社が支払う総人件費は変わりません。定期昇給の原資はその体系の傾きを表すものになります。〇二年当時よ

定期昇給

最低でも五十歳本人給の六十%とするよう要求しました。世間の調査でこの形式が多く企業の再雇用者に対する考え方が数字で現れていきます。竹中は文書化すると守らなくてはならないで協定できないとしていま

り総人件費は三割程度下がっているはず。最低賃金

最低賃金

格差是正・生活水準の底上げを求め、今年時間給一〇五〇円で要求しています。

甲種嘱託社員

アカデミー賞、受賞作品ということでは先日近くの映画館で観てきました。私的にはこれがアカデミー賞?別段普通の韓国映画ではないかと思うところもありましたが...

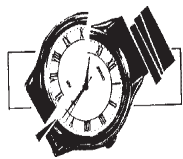
パラサイト

前半は半分コメディ的に貧乏一家がIT社長一家に寄生虫のように入り込んでいき(長男が家庭教師・妹が美術セラピー・父親が抱えの運転手・母親が家政婦)貧乏一家の笑いが止まらない時が到来します。しかし、ある嵐の夜から坂道を転げ落ちるように場面が展開していきます。

この映画を見て観て感じたことは貧富の差です。貧乏一家は半地下の家、IT社長一家はホテルの様な豪邸。その貧富の差が後半の悲劇の引き金となります。韓国の社会問題を訴えているようにも観えました。

「創業60年」

弊社ですが社内の実態はどうでしょう。次の七〇年、いや六五年周年を迎えられるのだろうか。



色々な会議・打合わせの内容を聞いている限り、どれも六〇周年を迎える会社が議題にするような内容には聞こえない。

